

令和5年度

家庭系及び事業系一般廃棄物組成分析調査結果報告書

令和6年1月

苫小牧市ゼロごみ推進課

--- 目 次 ---

1.	目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2.	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
	（1）家庭系一般廃棄物・・・・・・・・	P 1
	①調査対象	
	②調査方法（戸別収集は若干異なる）	
	③分析項目	
	（2）事業系一般廃棄物・・・・・・・・	P 1
	①調査対象	
	②調査方法	
	③分析項目	
3.	家庭ごみ分析結果	
	（1）燃やせるごみ・・・・・・・・	P 2
	（2）燃やせないごみ・・・・・・・・	P 3
	（3）プラスチック・・・・・・・・	P 4
	（4）紙類・・・・・・・・	P 5
	（5）資源物・・・・・・・・	P 6
4.	事業系ごみ分析結果・・・・・・・・	P 7
5.	まとめ・・・・・・・・	P 8

1. 目的

家庭系一般廃棄物及び事業系一般廃棄物の排出状況や、資源化可能物の混入量の把握を行い、今後の廃棄物減量の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 家庭系一般廃棄物

①調査対象

共同住宅が多い町、公住が多い町、一戸建て住宅と高齢者世帯が多い町、若年世帯が多い町、戸別収集地区を対象に市内5町を選定した。

R5年度の調査対象地区はR4年度と条件は同じだが、地区を一部変更した。

	一戸建て住宅と 高齢者世帯が多い町	公住が多い町	戸別収集地区	共同住宅が多い町	若年世帯が多い町
R4	栄町・寿町	末広町	船見町	拓勇西町	ウトナイ南
R5	栄町・寿町	末広町	勇払	拓勇西町	ウトナイ北

②調査方法（戸別収集は若干異なる）

・可燃物・不燃物

分析対象となる町のごみステーションのうち、指定した15ヵ所から指定ごみ袋5ℓ、10ℓ、20ℓ、30ℓ、40ℓと、有害ごみ・おむつ類をそれぞれ平均的な量で合計100kg程度になるように回収する。

・プラスチック・紙類

分析対象となる町のごみステーションのうち、指定した15ヵ所からそれぞれ標準的、平均的なごみ袋を2袋ずつ回収する。

・資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

1ヶ所のステーションに出ているごみの袋を全て回収する。

③分析項目

- (1)厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)布類 (3)木類 (4)ゴム・皮革類 (5)紙おむつ (6)紙類 (7)感染ごみ
(8)スチール缶 (9)アルミ缶 (10)ペットボトル (11)ガラス類 (12)プラスチック類 (13)有害ごみ
(14)その他不燃物

(2) 事業系一般廃棄物

①調査対象

沼ノ端クリーンセンターへ搬入された事業系一般廃棄物を対象とする。

②調査方法

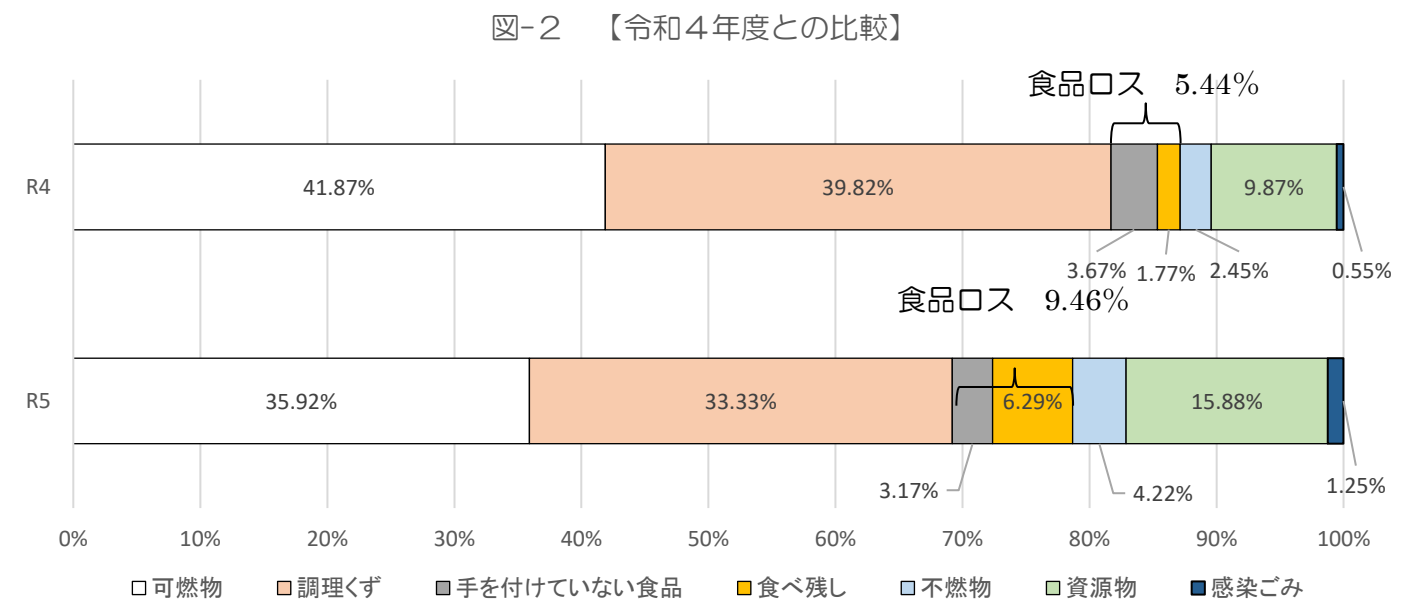
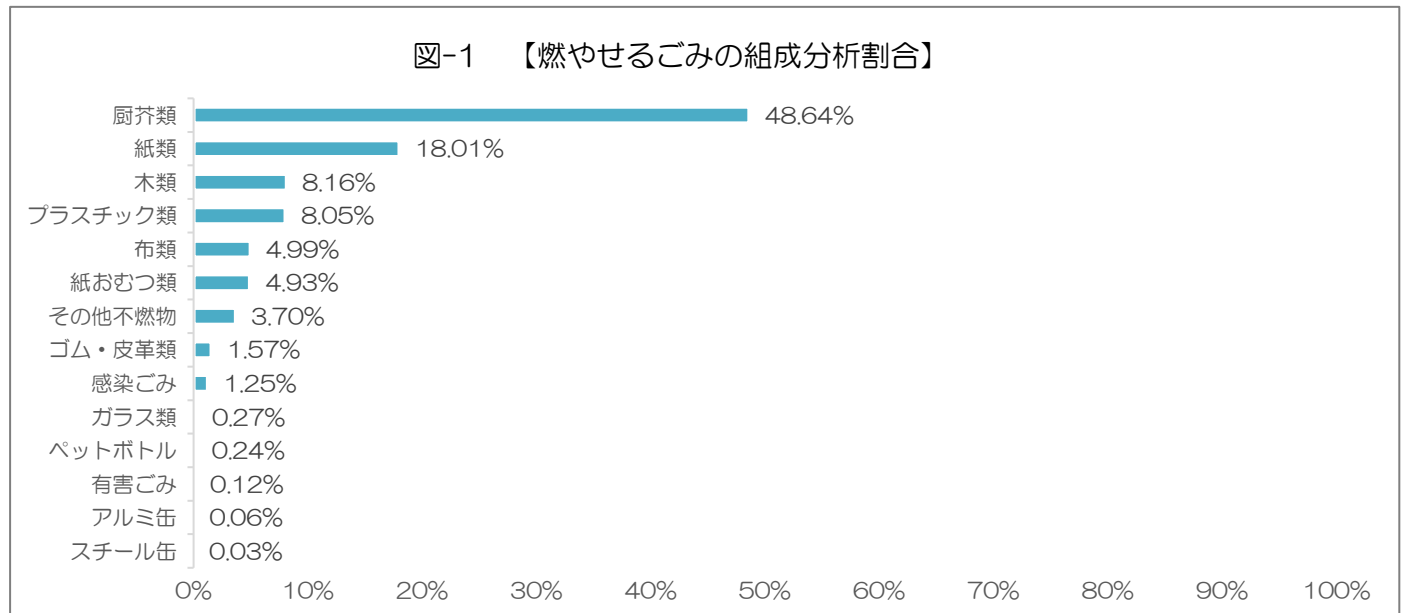
事業系一般廃棄物の搬入ピット内に堆積している廃棄物を攪拌し、100kg程度を分析用試料とする。

③分析項目

- (1)厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)紙類 (3)布類 (4)木類 (5)ゴム・皮革類 (6)アルミ缶 (7)スチール缶
(8)びん類(9)ペットボトル (10)プラスチック類（個人消費のもの） (11)産業廃棄物

3. 家庭ごみの分析結果

(1) 燃やせるごみ



燃やせるごみの分析結果は、今年度は厨芥類の割合が最も高く、次いで紙類、木類という結果となった。

令和4年度との比較では、調理くずの割合が39.82%から33.33%に減少した。しかし、厨芥類の食品ロスの割合が5.44%から9.46%に増加した。食べ残しについては、主に食パンや野菜などの賞味期限が短い物が捨てられる傾向にあった。また、資源物の割合が9.87%から15.88%に増加した。

(2) 燃やせないごみ

図-3 【燃やせないごみの組成分析割合】

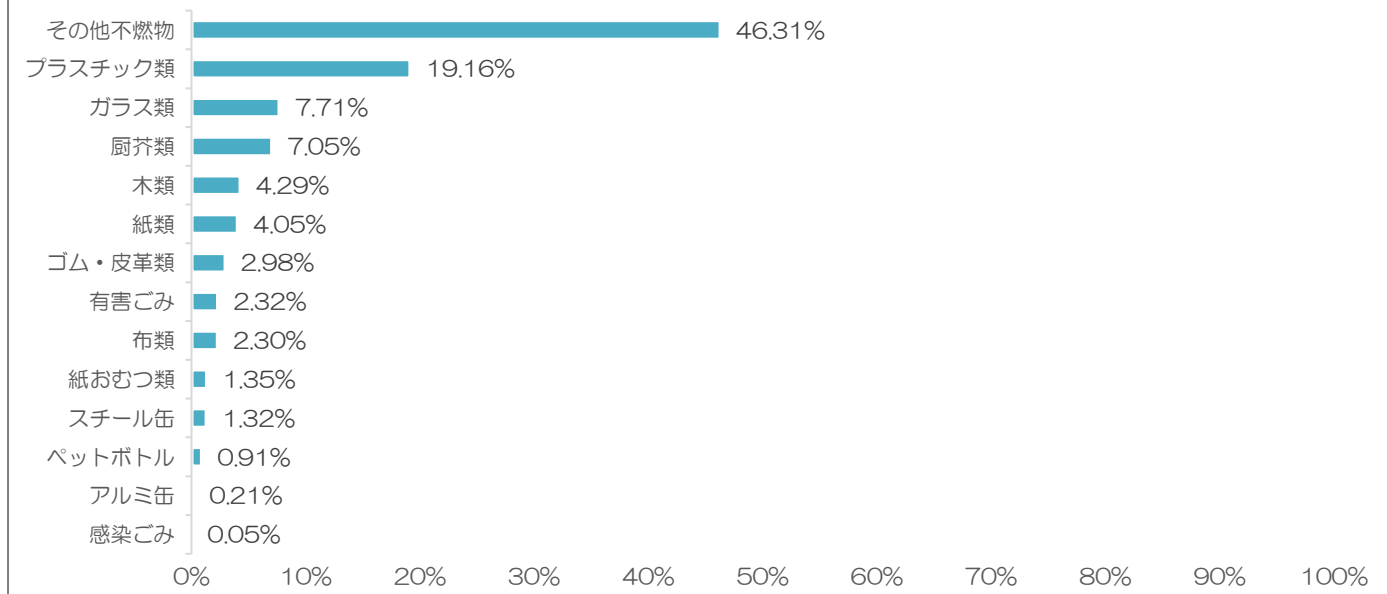
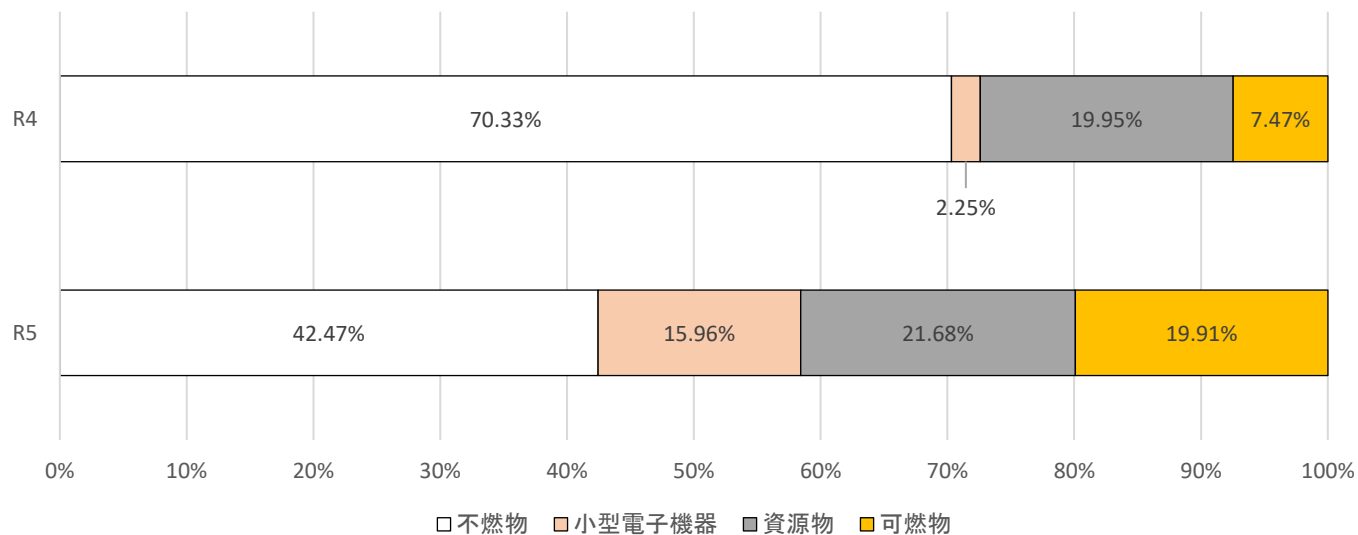


図-4 【令和4年度との比較】



燃やせないごみの組成分析結果は、その他の不燃物が46.31%、次いでプラスチック類が19.16%となった。

令和4年度との比較では、不燃物の割合が70.33%から42.47%に大幅に減少した。また、小型電子機器の割合が2.25%から15.96%と大幅に増加し、可燃物についても7.47%から19.91%と大幅に増加した。

(3) プラスチック類

図-5 【プラスチック類の組成分析割合】

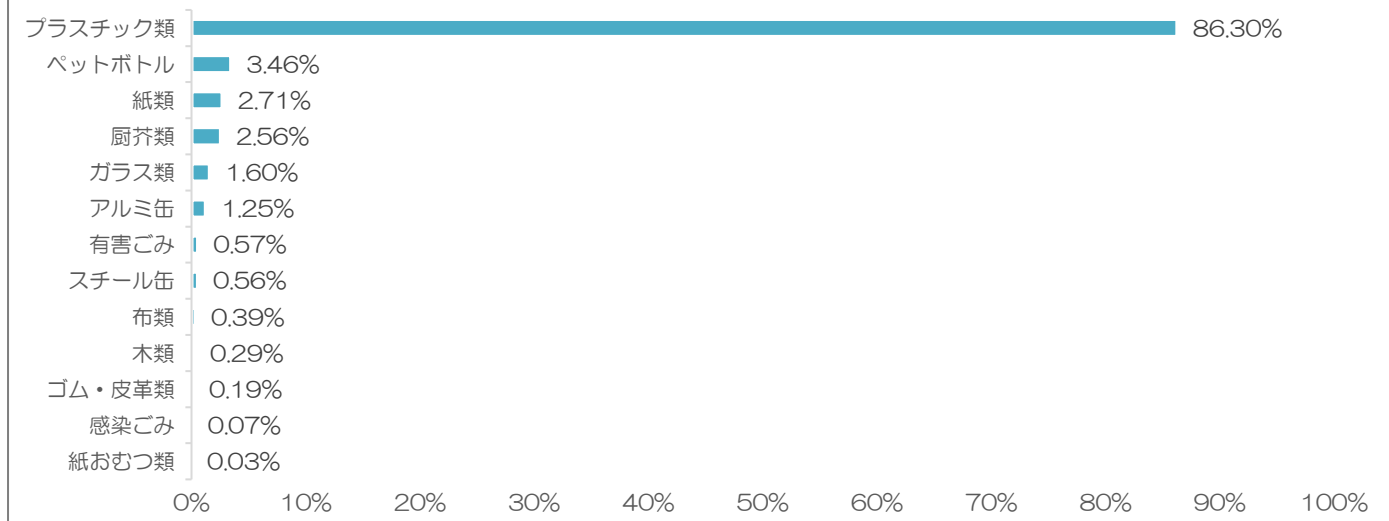
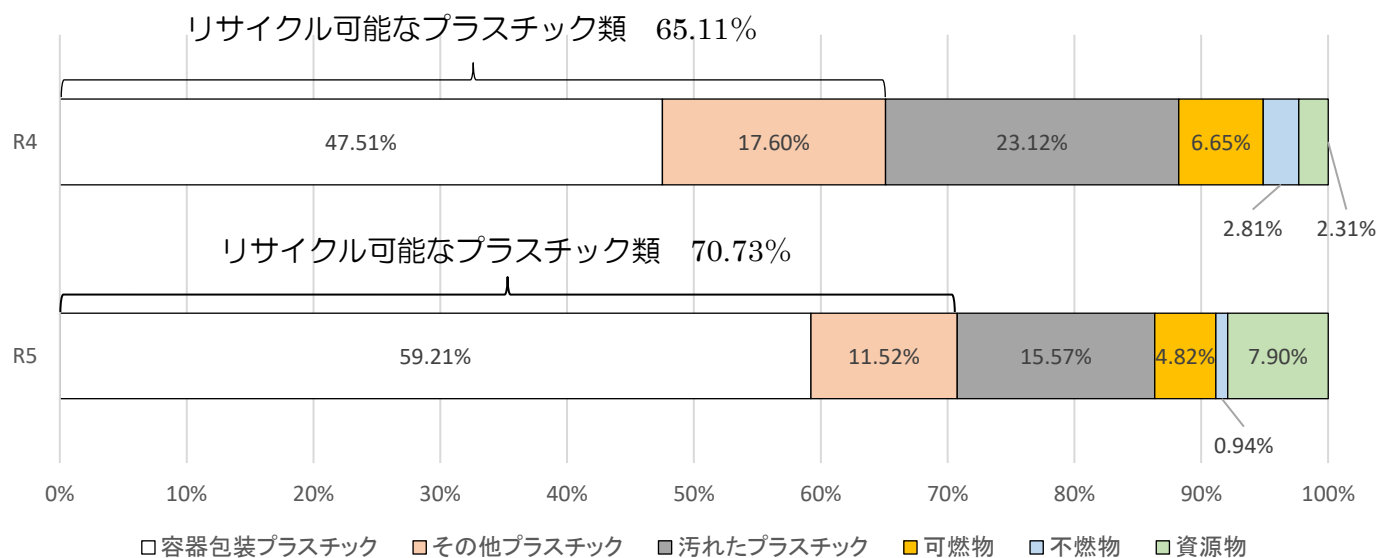


図-6 【令和4年度との比較】



プラスチックの組成分析結果は、プラスチック類が86.30%、次いでペットボトルが3.46%となった。

令和4年度と比較すると、リサイクル可能なプラスチックの割合が65.11%から70.73%に増加し、汚れたプラスチックは23.12%から15.57%に減少した。しかし、資源物の割合が2.31%から7.90%に増加した。

(4) 紙類

図-7 【紙類の組成分析割合】

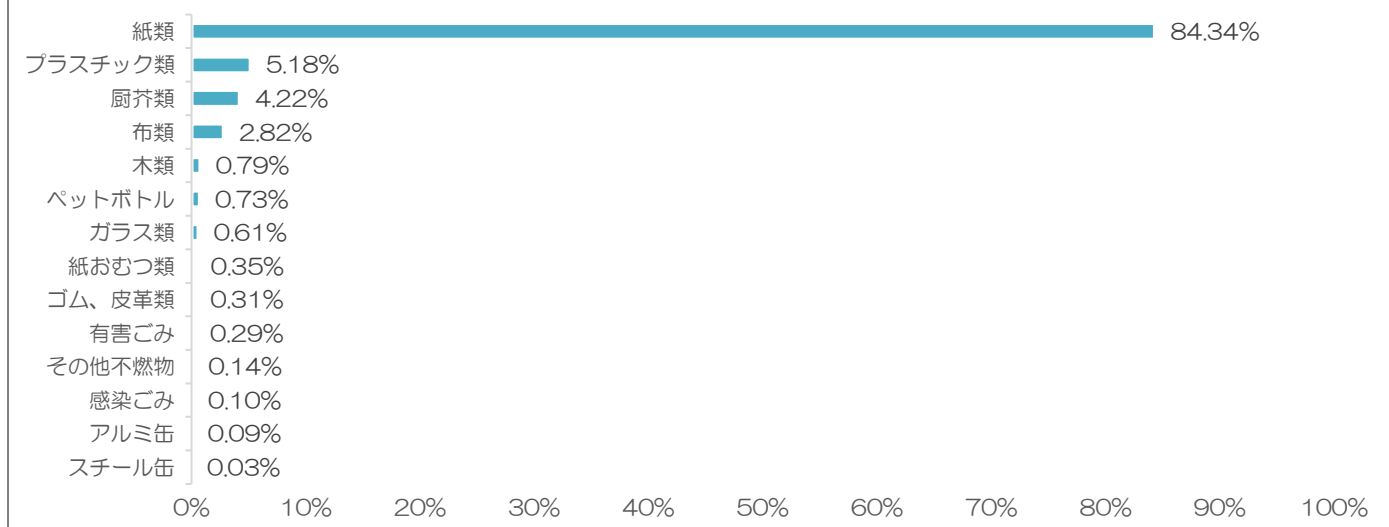
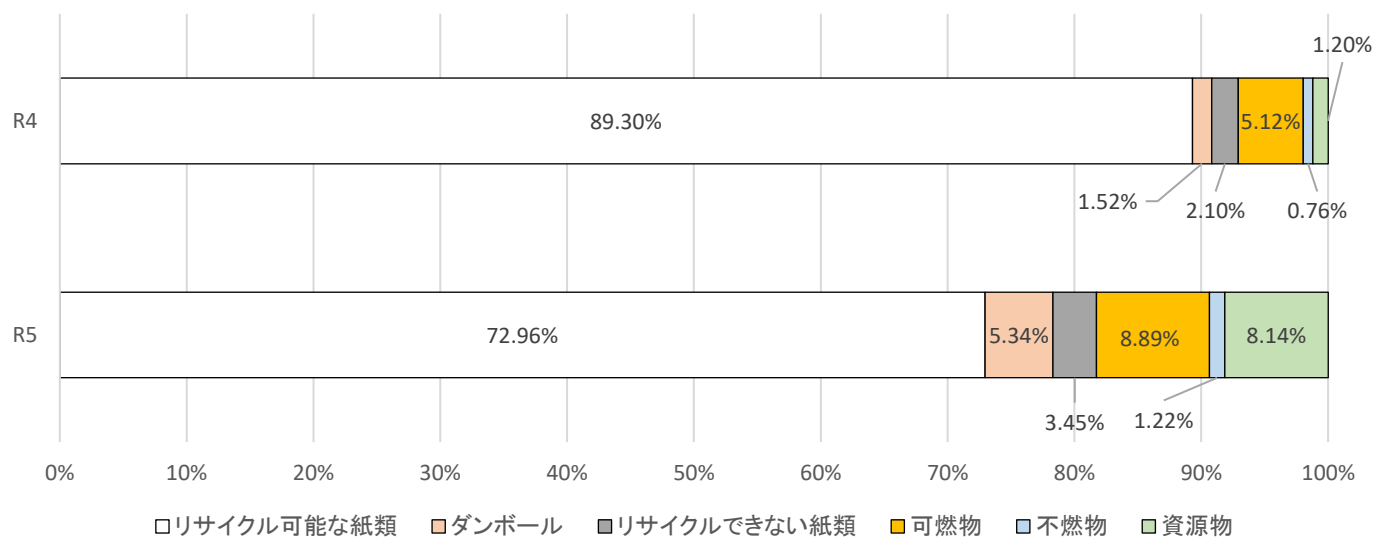


図-8 【令和4年度との比較】



紙類の組成分析結果は、紙類が84.34%、次いでプラスチック類が5.18%となった。

令和4年度と比較すると、リサイクル可能な紙類の割合が89.30%から72.96%に減少した。また、ダンボールの割合が1.52%から5.34%に増加し、資源物も1.20%から8.14%に増加となった。

(5) 資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

図-9 【資源物の組成分析割合】

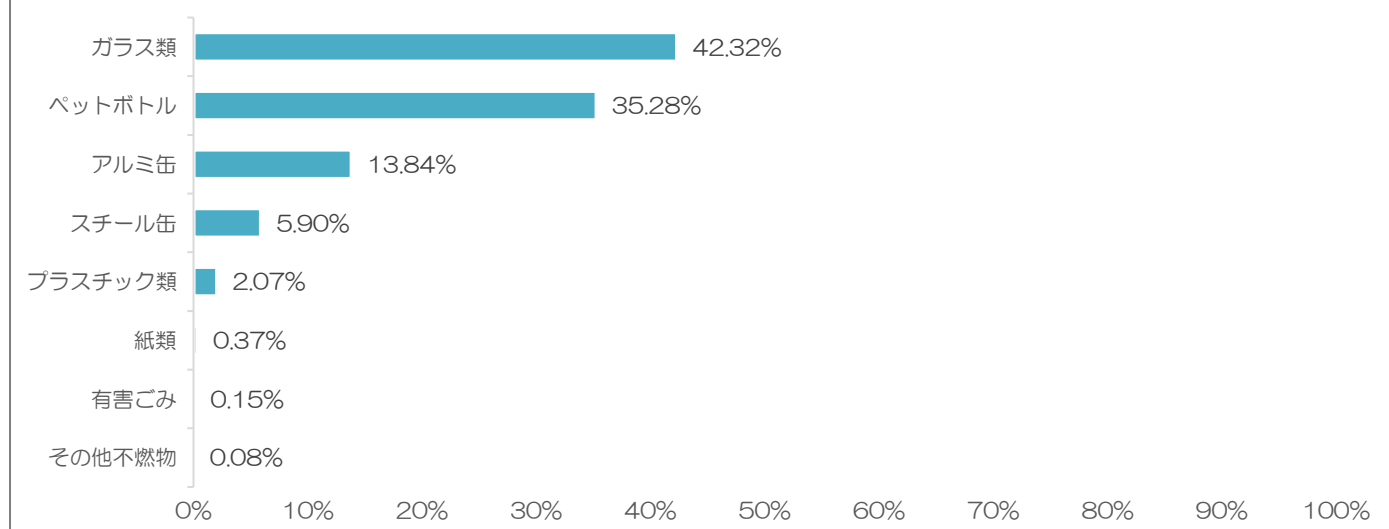
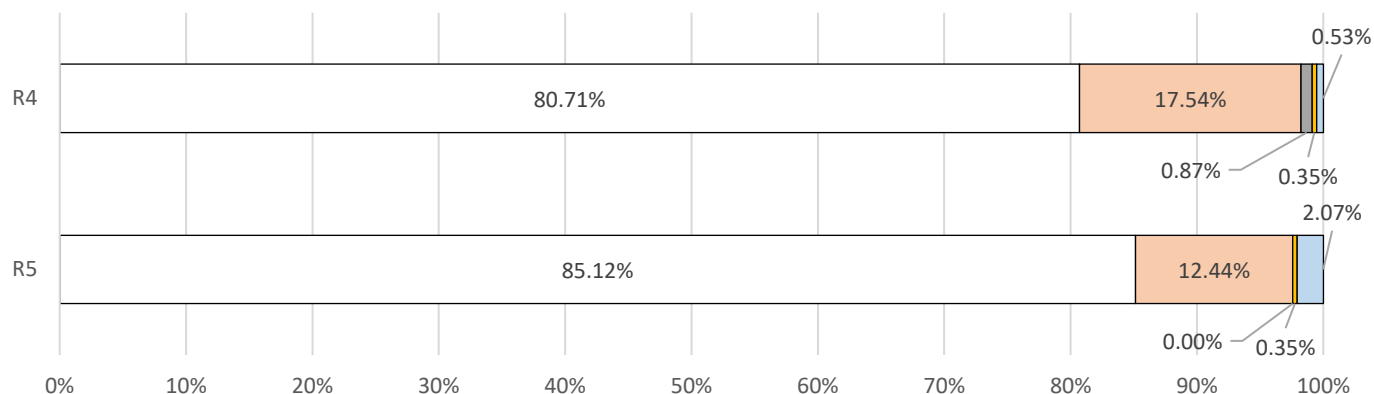


図-10 【令和4年度との比較】

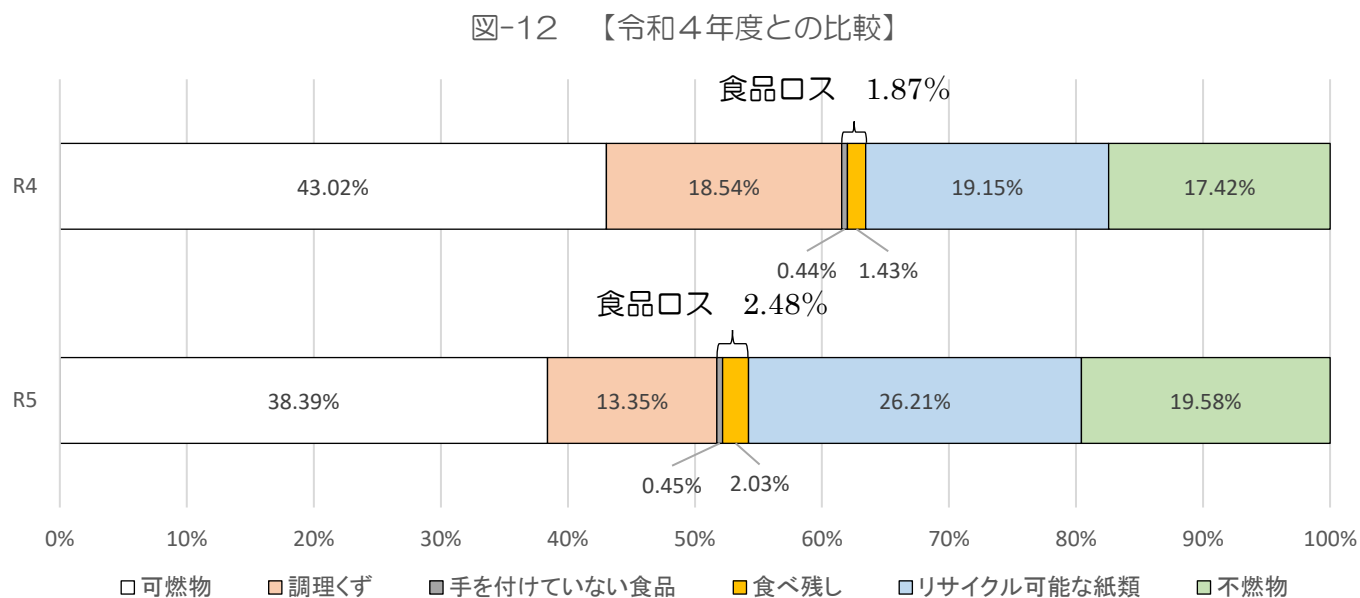
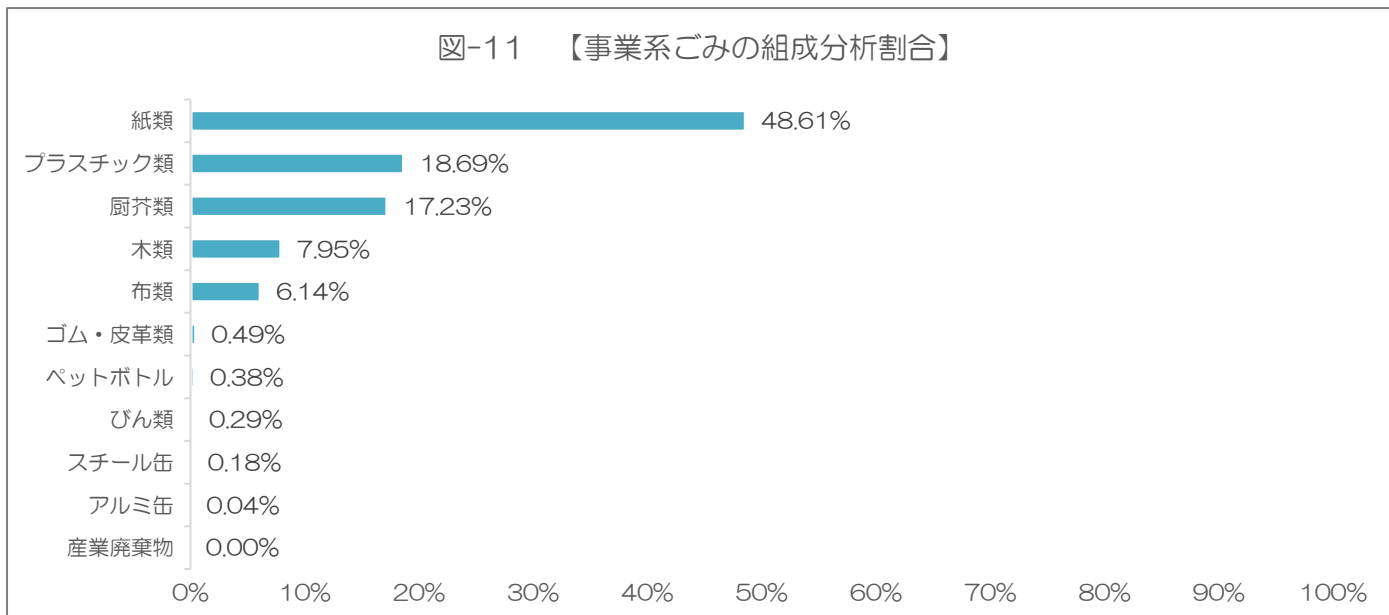


□リサイクル可能な缶・びん・ペットボトル・紙パック ■リサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パック ■可燃物 ■不燃物 ■資源物

資源物の分析結果は、ガラス類が42.32%、次いでペットボトルが35.28%となった。

令和4年度と比較すると、リサイクル可能な缶・びん・ペットボトル・紙パックの割合が80.71%から85.12%に増加し、リサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パックが17.54%から12.44%に減少した。一方、その他資源物の割合が0.53%から2.07%に増加した。

4. 事業系ごみ分析結果



事業系ごみの組成分析結果は、紙類が48.61%、次いでプラスチック類が18.69%となった。

令和4年度と比較すると、調理くずが18.54%から13.35%に減少した。しかし、リサイクル可能な紙類が19.14%から26.21%に増加し、可燃物が43.02%から38.39%に減少した。

5. まとめ

【家庭ごみについて】

- ・燃やせるごみの調理くすが 39.82%から 33.33%に減少した。
- ・プラスチック類のリサイクル可能なプラスチックが 65.11%から 70.73%に増加した。
- ・プラスチック類の汚れたプラスチックが 23.12%から 15.57%に減少した。
- ・資源物のリサイクルできる缶・びん・ペットボトル・紙パックが 80.71%から 85.12%に増加した。
- ・資源物のリサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パックが 17.54%から 12.44%に減少した。

●今年度の課題点

- ・燃やせるごみの食品ロスが 5.44%から 9.46%に増加した。
- ・燃やせないごみの不燃物が 70.33%から 42.47%に減少した。
- ・プラスチック類の資源物の割合が 2.31%から 7.90%に増加した。
- ・紙類のリサイクル可能な紙類の割合が 89.30%から 72.96%に減少した。

【事業系ごみについて】

- ・調理くすの割合が 18.54%から 13.35%に減少した。

●今年度の課題点

- ・リサイクル可能な紙類が 19.14%から 26.21%に増加した。
- ・可燃物の割合が 43.02%から 38.39%に減少した。

【今後の改善策】

- ・委託業者が本来は不適正で回収されないごみ袋を回収しているケースがあったため、回収するごみ袋の選定方法について改善する。
- ・指定されたごみステーションでの割合だけではなく、加重平均でも割合を算出する。
- ・不適正の割合が多かった地区については、町内会等を通じて指導を行うことを検討する。